

第7回 四条通エリアマネジメント会議議事要旨

日 時：平成31年3月19日（火） 午後1時30分～2時30分

場 所：職員会館かもがわ 大多目的室

議 題：四条通整備完了後のエリアマネジメントについて

あいさつ：

（塚口会長）

昨年8月、四条通のハード面の整備が完了した。このハードをいかに使うか、ということについては、これまで以上に議論が必要になるのではないかと思う。

今までは行政がリーダーシップを持って地元の協力を得ながら進めてこられたが、今後、地元の皆さんを含む「関係事業者等」にとっても、使いやすい、現実的なルールを作っていくという点において、行政以外の関係者の皆様方の役割が非常に大きいと考える。

議事要旨：

●四条通整備完了後のエリアマネジメントについて(資料に基づき、事務局から説明)

（各委員からの意見）

- 沿道アクセススペースにおいて、乗用車とトラックの駐停車台数が増加傾向にあるのは、基本的には良くないが、比較対象が平成28年度である点に注意が必要である。むしろ、立ち上げ期であった当初の水準が低く、現状程度の利用が標準的なのかも知れない。28年以前や、間に当たる29年度のデータ、また、可能であれば、来年度以降の動向を見守ったほうが良い。
- 引き続きのモニタリングはもちろん、整備前の状況についても確認したい。
- 集計データは自動的にカウントしているのか？トラック等はどう区別されているのか。
- 「トラック」等の判断は、外見的特徴による自動カウントであり、100%正確なものではない。
- 前回会議開催時（3年前）と比較して、指導・啓発活動に変化はないか。
- 京都市のサービス事業推進室では、ほぼ毎日、午前か午後に、駐停車車両の指導・啓発を行っている。3年前から同様で、むしろ最近のほうが手厚い。また、停車中の方に声掛けをすると、短時間で移動していただけるケースも多く、ルールが浸透してきている

と感じる。一方、30分以上の荷捌きや店舗の利用で長時間駐停車される場合もある。

- 地元商店街の方々の活動はいかがか。
- 商店街でも、変わらず、週3回程度はみ出し車両や自転車の通行等を確認している。併せて、加盟店に対する心の啓発活動も続けている。
- エリアマネジメントは、大変重要と認識している。四条通は京都の玄関の一つなので、京都市内はもちろん、他府県に対しても、お越しいただく際には、公共交通機関でお越しいただきたい。そして、これだけ素晴らしくなっているということを、アピールし続けていただきたい。
- タクシー業務センターでは、週に1~2回、違法駐停車に対する啓発・指導を行っている。最近、特に問題になっている大丸前タクシー乗り場のはみ出しについては、週1回は行っている。指導員が立っているとなくなるが、いなくなると、また起こるという状況。また、違反行為等に対する点数制度を設けており、場合によっては、下車勤命令を含む指導を文書で行うなど、厳しく対応している。
- 沿道アクセススペースでは、5分以内の荷捌きを認めて頂いているが、5分以内に（配達を済ませて）戻ってくることは、なかなか難しい。また、いつでも車を移動できるようにしておかなければならず（放置車両と見なされるため）、ドライバーが車から離れた瞬間に違反切符を切られることもあると聞く。何とかしていただければ、と思う。
- 平成30年2月の警察庁からの通達に基づき、御池通で貨物集配中の貨物車両の駐車が可能になった。業界ルールで、駐車時間を20分程度としているが、四条通においても、同じように20分程度の駐車を認めていただくようご検討いただきたい。
- 四条通のタクシー乗り場のはみ出し車両台数は、30年4月から6月にかけて減少しており、とても良いこと。なぜか？理由を明らかにして、これを持続できるようにしていただけたら良いと思う。
- 駐車規制の見直しの件については、当初、貨物車（4ナンバーや1ナンバーの車）が溢れかえるのではと心配したが、現状、上手に利用されている方もいる一方、少しでも楽をしようと、細街路に入って停める業者もおられる。業界のほうからも、上手に利用するような指導・啓発をしていただき、少し遠くても、御池通に駐車をして荷物を届けるようにしていただきたい。

- アクセススペースの混雑率は 20%程度となっているが、実感としての混雑状況と整合しているのか。デッドスペースを勘案し、収容台数との比較で算出すべきでは。20 数%で混雑している、となると誤解を招くおそれもあるので、あまりこの数字にこだわらないほうが良いかも知れない。
- 「混雑率」は、沿道アクセススペースの全体の面積に対する、車両の占有面積として算出しており、実際には使えないスペースも対象となっている。また、あくまで平均値なので、夜中の時間帯なども含まれており、実感と異なる部分もあるかと思われる。
- 「歩くまち」ということを、もっと、市民、観光客、インバウンドに、しつこくアピールしてはどうか。資料にあるバナー広告などにも「歩くまち・京都」というキャッチフレーズを入れることで、「歩くまち京都」と誰もが言うように。
- 四条通の地下道も、ぜひ「歩くまち・京都」実現に向けて活用してほしい。
- 同感である。四条通は、非常に良くなった。けれども、京都という土地柄を考えたら、もっと素晴らしいものができる、という風に展開して行ってほしい。何年後かに、京都の「歩くまち」は安全だし楽しい、ということ、市民のみなさん、観光客等それぞれに思っただけのようになればいいなと思う。
- ハードができて、少しずつ良くなっている。今後とも協力して良くしていこうという思いは会議ご出席の皆さんと共有できたと思う。

※閉会